



～あふれ出る湧き水と瑠璃色の水辺の町～

針江・霜降



はりっしも

Harisshimo vol.17 2023 (令和5年). 7

Message

針江・霜降地域は国の「日本遺産」・「重要文化的景観」の選定を受けています。



会長就任のご挨拶

カバタをどうしたいのか

水辺景観のより良いかたちを模索

■この度、「針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会」の会長の重責を担うことになりました、伊藤です。よろしくお願いいたします。

本会は、針江霜降の水辺景観が国の重要文化的景観の選定を受けて立ち上げた協議会ですので、文化的、学術的な物にはまったく縁のないわたしが会長を引き受けることに少々抵抗感があったのですが、協議会のメンバーに推挙され引き受けることに成りました。

わたくしは、協議会の設立当初に3年間、さらに令和2年度に針江区長として参加して以来4年目になります。昨年度から新たに組み込んで来た調査事業などを粛々と進めたいと思います。

その一つがカバタの再調査です。現在8割方終わることが出来ました。今後調査結果を元にカバタをどうしたいのか、どうあるべきなのかを議論し、より良いかたちを模索したいと思います。

また、カバタを取り巻く水環境である川の水質調査も行っています。過去のデータが無くこれから積み上げていくので5年10年と長期になると思われますが、これからの環境の変化を見ていくことが本会の重要な役割かと思っています。

今後とも本会に対しご理解とご協力を賜ります様お願い申し上げます。

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会
会長 伊藤 昭

はりっしも information
守る。伝える。活かす。



*当協議会は、私たちの大切な「水の文化」を「守り、伝え、繋ぐ」活動を進めています。

令和5年度 針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会 役員

■今年度より会則の改正に伴い、下記の役員にて活動を推進いたします。新たに伊藤昭さんが会長に就任し、副会長には従来通りの針江・霜降区長に加え、山川隆さんが就任し、3名の役員が加わり活動しております。

会長 伊藤 昭

副会長 山川 隆

※水田 正彦 (針江区長)

青木 博 (霜降区長)

監事 北野 俊朗 海東 弘

【針江】足立 亨・高田一雄・高橋正通

前田豊彦・三宅 進・森田茂之・※森田幸則

【霜降】※海東良仁・藤本徳治・山川三津浩

※新規選出役員

○カバタ調査班 班長：北野 俊朗

○河川調査班 班長：青木 博

○文化財調査班 班長 兼 水辺景観資料室

室長：足立 亨

■カバタの「保存修理」「追加登録」、重要文化的景観の整備活用等のご相談、及び「カバタ調査」「河川調査」「文化財調査」について、お問い合わせは協議会の役員までご連絡ください。

■重要文化的景観に選定された際に重要な構成要素として認定されているカバタ（現在：45件）などを保存修理・修復する場合は、国から経費の補助を受ける制度があります。



針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会のインフォメーションがホームページとFacebookで見られます。
<https://harisshimo.jp/>

湧き水と自然の町に
小さな川をつなぐ
カバタがある



小池川の川遊び

■虫も飛び交う小池川は、夏になると子どもの川遊びの場となります。針江大川とはまた違うこじんまりとした、趣のある清い川です。

水辺景観 四季の便り

空の花の匂う垣根に...「夏は来ぬ」
コイ遡上、ホタル舞う

■霜降では4月9日に、針江では、5月14日に恒例の川掃除が行われました。区民総出の負担も多いこの労役も、最近はたまにしか出会う機会のない区民と一緒に汗を流す貴重な機会となりました。針江・霜降の水辺も、一気に水のはじける夏に向かいます。



湧水が主体で年中ほとんど澄みきった針江・霜降の河川も、ゴールデンウィークあたりから田植えの代掻きの落水で水藻も泥にまみれてしまっていますが、この時期は大型のコイやニゴイが大量に遡上してきます。ごぼごぼ音を立てている時もあり、生命の営みの迫力を感じます。特に今年はニゴイが目立ちました。

5月16日には、針江大川上流でホタルが飛び始めました。源氏ホタルです。同日、霜降会議所下流、小池川下流でも飛んでいたという情報が役員から寄せられました。



ホタル乱舞



ニゴイ遡上

はいっしも探索



構成要素および水系視察実施

■5月20日に当協議会役員による重要文化的景観の構成要素の現地視察を実施。毎年エリア内外を視察することによって、構成要素の状況変化を把握し、問題や課題がないかを確認しています。

今年も水系全体の把握と、水質・生態状況（魚類や藻の状況など）、河川氾濫等の防災の観点から要注意ポイントを確認し、特に重点的に確認してまわったのが、空き家や空き地の発生状況、開発地の状況です。



霜降会議所からナカズシへ

■針江・霜降集落の湧水最上流エリアです。田植え時期で細い水路にも豊富に水が流れこんでいます。川中にお地蔵さんがおられる美しい湧水河川もこの時期ばかりは少し濁りが入ります。



■今、このナカズシ・エリアから県道藁園熊野本線にかけての広い田んぼが開発されています。所有者の方は、当協議会メンバーとも情報共有しながら土地活用を進められています。

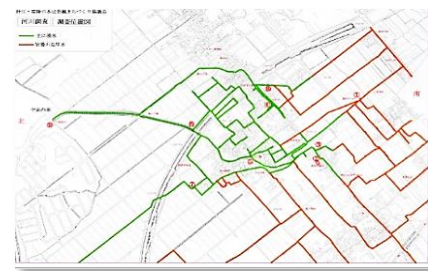


かなり複雑な水利調節

■山形方面から霜降南川、そして針江の前郷川などに流入する水系は、田んぼの灌漑を考えた複雑な水利調節がなされています。道路の拡張により位置が変わった南川ですが、今も湧水が豊富です。



★空き家、空き地が増加しています。売買物件の看板を見ると、寂しいものがあります。防犯、防災の面からも心配です。針江・霜降でも、空き家を改造して移住されている方もおられます。市の市民協働課定住推進室では「空き家紹介システム」を導入し、移住・定住と地域の良好なコミュニティ形成を推進しています。湧水の豊富な針江・霜降は比較的人気があるようです。売却や貸家をお考えの方は、相談や登録を検討してみてもいいでしょうか。当協議会役員にも情報提供など声をかけていただき、まちづくりの観点から一緒に考えさせていただきたいと思います。



- 豊富な湧水の水源地。湧水を使った生活が営まれている「針江・霜降集落」
- 集落と琵琶湖を結ぶ「針江大川とその間に広がる水田地域一帯」
- 針江の湖岸沿いに残る「ヨシ群落一帯と琵琶湖水域」

●河川調査に使用しているエリア河川図
安曇川沿岸用水流入河川と湧水主体の河川が色分けされています。



正傳寺周辺は特に豊富な湧水エリア

■南側のグラウンドは、かつては広い湧水の湿地帯でした。周辺水路はほとんど湧水でいつも透明ですが、ナフコ方面から流れる小池川は、この時期かなり濁水が入ります。亀の池では、大きなコイに交じって、かつてはカネヒラやオイカワがたくさんいたのですが、ほとんど姿が見えません。ブラックバスが入り込んだとか。



針江大川と国道 161 号線の交差点付近から下流方面

■この冬あまり雪が降らなかったので融雪剤使用が少なかったせいか、近年に比べると藻が復活しています。国道の橋梁下部から直接雨水排水が針江大川に落水する、全く環境に配慮がない設計です。



■針江大川の1級河川の起点付近から中島内湖のヨシ帯は、昨年は大雪の影響で壊滅的な状況でしたが、今年はきれいに生えそろうています。川底はかなり濁っていて見えませんでしたが、たくさんのコイが遡上しています。

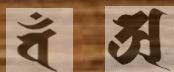


■中島内湖（三五郎さんの船着き場）では、以前は流路を塞ぐほど繁茂していた外来種のオオフサモが無くなり広々と豊かな内湖の風景を見せています。中島内湖と琵琶湖の間には排水機場があり、集中豪雨時などに内湖の水を琵琶湖に排水し、災害から田んぼや集落を守っています。



シリーズ たかしまの文化財

針江日吉神社
板碑・宝塔



■針江のお宮さんの奥、石津寺の前に、楠木の巨樹の根元に、花崗岩でできた大きな板碑と宝塔があります。板碑と宝塔（中央）は、鎌倉時代（今から約700年前）の作とされています。高島市指定文化財です。

板碑は、少し欠けた先端を復元すると、地上にある部分の高さは195センチ、二つで3.5メートルの巨塔となり、県下で最も大きい板碑と考えられています。



中央の宝塔は、一番上の相輪がなく、五輪塔のものが乗せられ、笠、塔身、基礎というように構成されています。欠けている相輪の九輪が完全に揃うと十尺塔（約3メートル）として造られたもので、宝塔としては貴重な巨塔です。南側の石層塔も中世に遡る古いものといわれ、四方仏が彫られています。

※板碑正面には密教において仏の姿の代わりとされている梵字の「バン」と「ア」が上半部の幅いっぱい彫られています。

針江・霜降の水辺景観資料室

毎月第3土曜日

定期公開中!



■公開時間は、午後1時30分～4時
■針江公民館2階（旧さつき文庫）

※公開日時に変更になる場合があります。針江公民館前にてお知らせします。

★別途、見学をご希望の方は、お知らせください。

■資料室では、針江・霜降の水辺景観関連の資料・文献、古文書や絵図、当地域の研究者の研究論文、新旭や高島市、滋賀県の歴史や風土にかかわる書物などを所蔵展示しています。

資料室では、水辺景観関連資料を募集中